

番組審議会資料（第 18 回、令和 4 年 3 月 書面にて）

1 開催年月日：令和 4 年 3 月（委員のご意見は 4 月末日まで）

2 開催場所：今回は紙上で

3 委員

委員総数 8 名

委員の氏名：足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

兵頭俊夫（東京大学 名誉教授）、

野田慶人（日本大学 芸術学部 前学部長）

音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、

金子光男（明治大学名誉教授・経済学博士、

株式会社 中央クリエイト社役員）、

清水市代（将棋女流棋士／

公益社団法人日本将棋連盟 常務理事・女流棋士会 監事）

吉原由香里（囲碁棋士）

4 議題

- ・特別番組について
- ・レギュラー番組について
- ・生放送について
- ・新しい取り組みについて

5 議事の概要

(1) 特別番組について

「開局 30 周年記念特番「竜星戦ヒストリー」

「開局 30 周年記念特番「銀河戦ヒストリー」

「第 29 期竜星 一力 遼の素顔」

「第 31 期竜星戦予選～注目の女流棋士～」

「第 31 期竜星戦 開幕特番」

(2) レギュラー番組について

「囲碁 AI アナリシス」

(3) 生放送について

- 「第 71 期 ALSOK 杯王将戦 挑戦者決定リーグ戦・七番勝負」
  - 「第 1 回 テイケイ杯女流レジェンド戦」
  - 「第 23 回 農心辛ラーメン杯 世界囲碁最強戦」
- (4) 新しい取り組みについて
- 「新竜星戦」・「新銀河戦」

## 6 詳細（各番組の内容）

### (1) 特別番組について

「開局 30 周年記念特番「竜星戦ヒストリー」

（初回放送：2021 年 11 月 19 日）

開局 30 周年を迎えた昨年、「竜星戦」と「銀河戦」の歴史を振り返る特番を制作した。「竜星戦」は、開局当初から囲碁の看板番組として放送。その後、中国や韓国でも「竜星戦」を立ち上げ、3ヶ国での「日中韓竜星戦」を開催するなどグローバルな棋戦に成長した。番組では、竜星戦の歩みを歴代出場棋士達の思い出コメントとともに振り返った。

「開局 30 周年記念特番「銀河戦ヒストリー」

（初回放送：2021 年 11 月 20 日）

1991 年、竜星戦誕生の 1 年後にスタートした銀河戦。第 12 期では瀬川晶司アマ（当時）がベスト 8 入りし、のちの棋士編入試験の開設につながるなど、様々な形で注目を集めてきた。特番では、幅広い将棋ファンに楽しんでご視聴いただくために、人気声優でアマ有段者でもある岡本信彦さんを出演者に起用。これまでの数々のエピソードとともにその歴史を振り返った。

「第 29 期竜星 一力 遼の素顔」

（初回放送：2021 年 10 月 22 日）

史上初の竜星戦 3 連覇を果たした一力 遼竜星。優勝者の素顔に迫る特別番組も 4 度目の登場となった。今回は、更にパーソナルな部分に迫るべく、気心の知れた棋士(大西竜平七段・星合志保三段)との筑波山登山を実施。大自然の中、リラックスした「素の一力竜星」を撮影することができた。

「第 31 期竜星戦予選～注目の女流棋士～」

（初回放送：2021 年 12 月 10、17、24 日）

第 27 期竜星戦決勝トーナメントで、藤沢里菜女流立葵杯が高尾紳路九段に勝利。続く第 28 期では上野愛咲美女流棋聖が準優勝するなど、近年、女流棋士の活躍が際立っている。そこでチャンネルでは、予選出場棋士の中から特に注目の 4 名の女流

棋士(仲邑 堇二段、星合志保三段、吉原由香里六段、鈴木 歩七段)にスポットをあて、その活躍ぶりや棋風を紹介した。

「第 31 期竜星戦 開幕特番」

(初回放送：2021 年 12 月 29 日)

開幕直前にその期の注目&見どころポイントを紹介する番宣的要素の番組。今回は、“つるりん”の愛称で人気の鶴山淳志八段と林 漢傑八段の 2 人に、普段着で司会進行を依頼。一方的な情報発信ではなく、随所にクイズを織り交ぜるなど、気軽にご視聴いただけるよう番組作りを工夫した。

## (2) レギュラー番組について

「囲碁 AI アナリシス」

(初回放送：2021 年 12 月～)

レギュラー番組「厳選棋譜解説」をリニューアル。過去の名局を AI で分析し、棋士が放つ絶妙の一手に迫る番組として、タイトルも「囲碁 AI アナリシス」(※アナリシス＝「分析」の意)に変更した。“人間対人間”。戦いの中で繰り出される神業的な一手。AI を活用することで、人間の持つ潜在能力の凄さをさらに実感できる番組になった。

## (3) 生放送について

「第 71 期 ALSOK 杯王将戦 挑戦者決定リーグ戦」

(生放送：2021 年 6～11 月)

前期、リーグから陥落した藤井二冠(当時)が、再度リーグ入りできるかが注目を集めていたこともあり、今期は二次予選から対局をピックアップして生放送を実施。リーグ戦では、見事リーグ入りを果たした藤井二冠の全対局に加え、羽生善治九段 vs 広瀬章人八段など人気棋士の対局も取り上げ、昨年度より生放送を充実させた。

「第 71 期 ALSOK 杯王将戦 七番勝負」

(生放送：2022 年 1～2 月)

挑戦者が藤井聡太竜王(当時四冠)に決まり、史上最年少五冠達成に注目が集まるシリーズとなった。番勝負開幕直前には、プロモーションも兼ね「リーグ戦一挙放送」を実施。また番勝負では、これまで放送していなかった対局 1 日目の生放送も行った。全四局、高視聴率を記録したが、特に王将位獲得を決めた第四局終局の瞬間がやはり一番高い視聴率だった。

「第1回 テイケイ杯 女流レジェンド戦・テイケイ杯 俊英戦」

(生放送：2021年12月11日(女流レジェンド戦)、

2022年3月4日(俊英戦 第1局))

囲碁の3つの新棋戦を生放送の新たなコンテンツに加えた。45歳以上の女流棋士らが出場する「テイケイ杯女流レジェンド戦」(昨年12月に決勝戦生放送)。若手棋戦「テイケイ杯俊英戦」(3月～決勝三番勝負放送予定)。男性レジェンド棋士を中心とした「テイケイ杯レジェンド戦」(3/18 決勝戦放送予定)。

今後も注目の新棋戦を可能な限りチャンネルで取り上げていく予定。

「第23回 農心辛ラーメン杯 世界囲碁最強戦」

(生放送：2022年2月21～26日)

日本・中国・韓国のトップ棋士らによる勝ち抜き団体戦。昨年11月の第2ラウンドで、井山裕太九段が4連勝し、日本が首位に躍り出た。日本優勝への期待が高まる中、急遽2月の編成を変更し、最終第3ラウンド(第10～14戦)を生放送。日本は、あと1勝で優勝というところまで戦いを進めたが、世界ランクトップのシン・ジンソ九段(韓国)に4連勝され、惜しくも準優勝に終わった。

#### (4) 新しい取り組みについて

「新竜星戦」・「新銀河戦」

(初回放送：2021年7月～(新竜星戦))

超早碁の新棋戦「新竜星戦」の放送を昨年7月に開始した。

早速、視聴者からは「迫力と表情をしっかりと見る事が出来る」と良い評価もあったが、「30分は時間が短すぎる」といったご意見も頂いた。

将棋も超早指し棋戦「新銀河戦」を立ち上げ、囲碁・将棋プレミアムでは3月から配信開始。囲碁・将棋チャンネルでは7月からの放送を予定している。

#### 7 委員より届いたご意見ご感想(要約)

(足立委員) ①「特別番組」や「生放送」がタイムリーに設定されていて、一昔前から比較すると、放送内容が随分充実してきたと思う。②2024年7月は日本棋院が創設されて100年の記念すべきときに当たる。これにかけて、日本の囲碁文化の発展をたどる特別番組を考えても良いのではないか。

(野田委員) 藤井聡太氏の益々の活躍にあやかっ、将来の囲碁将棋界に貢献すべく、子供達対象の楽しく面白い番組を企画してみてもは？ 囲碁将棋に興味を持たせる様なゲーム形式、クイズ形式等の内容の番組とし、枠は10～15分程度。週1or週2で子供達の視聴できる時間帯に設定。更に固定ファン層の迷惑にならぬ様な番組内容にするのが肝心！

(兵頭委員) 囲碁将棋チャンネルと同じ歴史を持つ竜星戦の開局 30 周年特番「竜星戦ヒストリー」は貴重な記録番組だった。韓国竜星戦、中国竜星戦およびそれらの優勝者同士の国際戦も含めて、竜星戦の歴史を十分楽しめた。初期には現在も活躍中のベテラン棋士の若い姿が見られた。第 12 期のブロック戦全勝に関するエピソード、第 22 期の三コウ無勝負等、レアな紹介が興味深かった。第 32 期にも河野臨九段の戦いに何かあると面白いと、根拠のない期待が沸いた。

「第 31 期竜星戦 開幕特番」は“つるりん”コンビの軽妙な進行で飽きさせなかった。竜星戦の特徴である、パラマス方式で行われるブロック戦の 8 つのブロックへの分け方とブロック内でも順位の簡単な解説があると良い。正確な詳しい解説は難しいと思うが、考慮されている要素を列挙して貰えると有難い。

「囲碁 AI アナリシス」は実戦や検討の一手毎に AI の複数の推奨手が示されるので、その分、解説内容が豊かになっている。解説者と AI の対話の要素も感じられる。

フィッシャー方式の「新竜星戦」は、テンポが良くて楽しい。私の力では速すぎて理解が追いつかないこともあるが、じっくり見ても理解できるとは限らないので不満はない。

(音委員) 特別番組「第 29 期竜星 一力 遼の素顔」、レギュラー番組「囲碁 AI アナリシス」の企画は大変面白いと思う。編成上、囲碁、将棋の対戦中継を基本としつつも、このような企画でチャンネルのウイングを広げることは、チャンネルの魅力の幅を拡大することになると考える。エッジの立った企画番組を期待している。

(中村委員) 「新銀河戦」に関して。男性棋士に混じって女流が非公式戦とはいえ本気で対局する姿は、視聴者にとって大変興味深く楽しく観戦できる番組だと思う。フィッシャールールで「持ち時間各 1 分。一手ごとの加算タイム 10 秒」は、観る側にとってちょうど良い設定。解説者の話もしっかり聴けるし、視聴者なりに次の指し手も考えられる時間だ。トータルで 30 分の放映は趣味の時間として確保するには適していると思う。

(金子委員) 藤井五冠を中心とした番勝負の生放送は実に面白かった。以前、対局の生放送は動きも少なく、映像的には面白みに欠けるとの声もあったが杞憂であった。奥行きのある、そして軽妙な解説、AI との比較、対局者の様々な情報（食事等の）が相俟って静止的画像をも躍動的にした。今後もこの種の取り組みを積極的に進めて頂きたい。

以下は、朝日新聞に寄せられた読者の「声」である。今後の番組作りの参考になるとの思いから引用させて頂く。「ここ最近、夫と将棋をするようになった。とはいっても、はさみ将棋やまわり将棋、山崩しといった、いわば将棋遊びである。本将棋にも挑戦したが、駒の動かし方を覚えるだけで精一杯である。定年退職し

て早 8 年の夫とゆったり時間を共有する。私はほとんど負け。はさみ将棋は昔少々やったつもりでいたが、夫には全く歯が立たない。一番単純なまわり将棋が唯一勝ちを狙える。将棋遊びに夫が付き合ってくれている、というのが本当のところだ。将棋を囲み、他のことは考えず、穏やかなひとときが流れていく。ともあれ 2 人の時間を大切にしたいと思う。夫が好きな将棋を知ろうとしなかったことを今更ながら少し後悔している。老後にこんな時間を共有できるのなら、もっと積極的に関われば良かった。」投稿者は現在 68 歳になる一主婦である。ここでは将棋（囲碁も同じだが）の可能性が実に生き活きと語られていると思う。

(吉原委員)「新竜星戦」とても楽しく拝見した。沢山話題にもなっていた。「第 23 回 農心辛ラーメン杯 世界囲碁最強戦」の生放送もとても良かった。ただ、毎日、星合さんが司会と聞き手で、連日は少し大変だったのでは、と思った。竜星戦にまつわる様々な番組も興味深かった。囲碁将棋チャンネルならではですね。

以上